

## イエスを証言する方

(ヨハネ5・31～40)

## 一、働きを始められるまで

「イエスは、働きを始められたとき、およそ二十歳で、ヨセフの子と考えられていた。」とは、ルカの福音書3章23節に書かれていることばです。二十歳になるまで、イエスは、ナザレで大工として生計を立てていました(マタ13・55、マコ6・3)。また、幼い時から敬虔なユダヤ人の両親に連れられて、毎年過越の祭りを祝うためにエルサレムに行っていました。十二歳になった時のことです。すなわち「律法の子」として成人した時のこと、イエスはエルサレムの神殿で、律法の教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり質問したりしておられました。それを聞いていた人たちはみな、イエスの知恵と答えに驚いていたのですから(ルカ?・41～47)、相当な人物であったと思われます。ですが、いわゆる人間離れた「天才」ではなかったと思われます。福音書記者のルカは、イエスが私たちと同じ人間であったと描いているように思われます。

聖書を学ぶことによって——イエスの時代の聖書とは「旧約聖書」ですが——、何が分かるのでしょうか。それは、神が何を考えになつておられるか

です。こつしてイエスは、聖書を学び、聖書に教えられ、聖書のことばを瞑想しつつ、およそ二十歳にして、それまでに温めてきた思いを実行に移し、活動を開始されました。

そついうわけで、主イエスが立ち上がった時、「人々の罪を自分が背負い、贖いの死を遂げることが、父である神のみこころである」という確信を持つておられました。その確信のゆえに、主イエスがメシアとして立ち上がった時、それをとどめたり、曲げたりすることのできるものはありませんでした。悪魔、すなわちサタンは、神の子であるイエスの活動をゆがめようとはしましたが、もちろんできませんでした。

## 二、聖書が語るキリスト

今回与えられた範囲は、31節から40節ですが、30節からのつながりで読んで方が良いと思います。30節にこうあります。へわたしは、自分からは何も行うことができませぬ。ただ聞いたとおりにさばきます。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたしは自分の意志ではなく、わたしを遣わされた方のみこころを求めるからです。」と。主イエスは常に、父である神の御意思を聞いて判断し、歩まれました。では主イエスは、どうやって父である神の御意思を聞かれたのでしょうか。それは聖書を。聖書から聞くとは、父である神か

ら聞くことなのです。

ルカの福音書24章に書かれている出来事を思い起こしてください。エマオに向かう二人の弟子たちに、復活のイエスが現れ、二人の弟子と共に歩き始められ、会話を交わされました。二人は自分たちに話しかけている御方が復活のイエスであることに気づいていません。なかなか気がつかない弟子たちに、主イエスは語られました。へルカ24・25～27そこでイエスは彼らに言われた。

「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのでありませんか。」それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。」とあります。

聖書に書かれているのは、すなわち旧約聖書が語っていることは、キリストの受難とその先にある栄光です。そのように、復活の主は、聖書全体から説き明かされたのです。言い方を変えらるなら、幼い頃から主イエスは聖書をそのように読んでおられ、父である神のみこころを掴んでおられたということです。

## 三、イエスを証言する方

31節、32節を見てまいります。へヨ

ハネ5・31～32」と、主は語られました。主イエスは、ご自身を証しする方がほかにいるとおっしゃいました。主イエス・キリストを証言する方は、父である神です。では、父である神の証言は、どのようになされているのでしょうか。聖書です。旧約聖書です。

主イエスが公生涯に入る前に、来るべきメシア、すなわち油注がれた御方の出現のために道を整えた方がいます。バプテスマのヨハネです。ですが主イエスは、バプテスマのヨハネによる証言は父である神の証言に比べたら小さなものであると語られています。へ5・33～35」です。主イエスにとって、バプテスマのヨハネの証言は必要のないものでした。なぜなら、父である神の証言があるからです。36節です。へ5・36」と。へわたしが行っているわざ」とは、主イエスを見れば神が見えるという意味のわざです。それほどに、主イエスは御自身を遣わされた方、すなわち父である神のみこころを求め、みこころを行われました。しかし不思議なことですが、ほとんどのユダヤ人には、聖書が証していることと主イエスが結びつきませんでした。39節です。へ5・39」と。

やはり、聖書を読みつつも、聖書を通して父である神が証しするイエス・キリストのことは、神の恵みによらなければ分からないと言えます。